

第1回 大津市プラスチックごみ削減勉強会

日時：4月20日（木）午後1時半～4時

会場：長等市民センター 第1会議室

参加：7名

- 内容： ① 2月16日に実施された亀岡市研修見学会についての報告があった。
- ② 新しい活動拠点として琵琶の会へ加入したことと、
3月2日にウォーターステーション琵琶主催「活動活性化ワークショップ」に松村が代表として参加したこと、4月9日に片田さんがびわの会年次総会に出席したことの報告があった。
- ③ アドバイザーの鍵谷司さんが大栄環境グループの施設を3月末に見学したことから、大手産廃業者の環境事業の規模や実態について、スケールの大きさに驚いたことなどを簡単に報告があった。
- ④ 2023年も活動を継続するのかを計り、今後の活動計画を話し合った。
特に今年度は、昨年に啓発活動として「水辺の匠」と「おおつエコフェスタ」でブースをだしたプラごみクイズをさらにバージョンアップさせて出展する。
- ⑤ プラごみ削減のための改善策の提案について話し合った。以前より話し合ってきた容器包装プラスチックの分別収集については収集システムを改善して、よりよいリサイクルと資源の有効利用・エネルギー回収を検討する必要がある。どのように行政に伝えていけばよいかの意見を出し合った。また、できるだけ身近で具体的な提案を考えることや焼却施設の詳細を知るべきとの意見が出された。
行政・業者・専門家活動家をパネラーとしてシンポジウム開催という案も出された。
- ⑥ 川や道路へのポイ捨てごみ対策として、亀岡市エコウォーカー制度を参考にして具体的に取り組みたい。当会として、マイボトルや給水所設置をもっと要望していたらどうか、などの意見が出された。
メンバーから卵パックの回収時に有効な具体的なパックの重ね方の提案があった。

.....

第2回 大津市プラスチックごみ削減勉強会

日時：9月15日（金）午後2時～4時30分

場所：明日都4F ふれあいプラザ小会議室

参加：10名

内容：大津市廃棄物減量推進課職員による 出前講座

- ・テーマ 「プラスチック資源循環促進法って、何？」
- ・講師：大津市廃棄物減量推進課 盛下さん、南さん

講座では次のことについて、盛下さんから説明していただいた。

- ① 大津市ごみ処理の現状
- ② プラスチック資源循環促進法について
- ③ 新法による今後の大津市のプラスチックごみ体制について
- ④ 質疑応答など

(新しい法律であることから、事前にメンバーからの質問事項を廃棄物減量推進課盛下さんに送った。講座ではすべての質問に回答いただく時間がなかったため後日、文章で回答をいただいた。質問内容と回答については、別紙参照)

(参加者からの意見まとめ)

- * 今回の講座で初めて新プラ法を取り上げたことで、詳しく知ることができる良い機会になった。法律の名前からの先入観でとらえていたこともあり、目的とすることや容器包装リサイクル法との違い、この法律で何か変わることができるかも考えるきっかけとなった。
- * 国と同様に、大津市のこの新プラ法第 32 条の「～できる」を努力義務と理解しており、「～しなければならない」という MUST ではないと解釈し、具体的な取り組みは様子を見ている段階であるが、いずれ義務化することも考えられる。
- * 製品プラで新プラ法の対象となる製品でサイズが 50cm 未満のものは、185 品目もある。大津市内でも使い捨てプラ製品を減らす企業の取り組みやコンビニにもペットボトルの回収を始めることなど、少しずつ動きが始まっている。
- * 法律は理想的な理論を出してきている。いずれにしても、日本の分別とリサイクルは場たりの体制が続いてきた。原理的に現実を知って解決する必要がある。市民もどうすべきか、どういう対応をしていくのかを自分事として検討すべき時ではないか。
- * 行政も市民も「木ばかり見て、森を見ていない」と思われる。
- * 容器包装プラスチックの材料リサイクルに、大津市がこだわる理由が理解できない。プラスチックの材料リサイクルは、カスケードだと知るべき。サーマルリサイクルを否定しないで、発電施設を活かせるエネルギー変換による資源の有効利用の道もある。
- * 大津市は、プラごみ対策において他市と比べて遅れをとっているのではないか。2050カーボンニュートラルにむけて、大津市のプラスチック体制はこれでよいのかを問いたい。
- * 特に、ポイ捨てのプラスチックごみにももっと対策を施すべきだ。亀岡市の好事例をみたらどうか。
- * プラスチックについては、資源循環の考え方をもっと啓発し、学校教育にも取り入れてほしい。そのために、もっとわかりやすい表示や分別にすべきだ。
- * リサイクル法は、資源の有効利用とごみ減量の手段であり、行政・企業業者・市民がそれぞれの役割分担のみにこだわって、リサイクル全体のあり方や現状から目を背けたり無関心ではいけない。